

〈専門領域名〉

リハビリテーション科

専門研修プログラム名	川崎医科大学リハビリテーション科専門研修プログラム		
連携施設群 (連携施設一覧)	川崎医科大学総合医療センター・岡山大学病院・岡山リハビリテーション病院・旭川医療センター・倉敷中央病院・倉敷リハビリテーション病院・しづかい病院・倉敷記念病院・倉敷平成病院・コープリハビリテーション病院・吉備高原医療リハビリテーションセンター(以上岡山県内)・近森リハビリテーション病院(高知県)・西広島リハビリテーション病院・日比野病院・福山リハビリテーション病院(以上広島県)・慶應義塾大学病院・東京大学医学部附属病院・東海大学医学部付属病院・中野共立病院(以上首都圏)・関西医科大学附属病院・八尾はあとふる病院(以上大阪府)・平成とうや病院(熊本県)		
募集定員数	各年次 6 名	研修期間	3年間
専門研修プログラムの概略	1. 専門研修プログラムの内容(概略)		
	リハビリテーション科専門研修プログラムは、2018年度から始まった新専門医制度のもとで、リハビリテーション科専門医になるために、編纂された研修プログラムです。日本専門医機構の指導の下、日本リハビリテーション医学会が中心となり、リハビリテーション科専門研修カリキュラムが策定され、様々な病院群で個別の専門研修プログラムが作られています。日本全国で70のリハ専門医プログラムがありますが、その中の一つが当研修プログラムとなります。 川崎医科大学リハビリテーション医学教室は、開設から約50年という国内でも最古の歴史を持つリハビリテーション医学教室のひとつであり、これまでに50名を超える優れたリハビリテーション科専門医を輩出しています。このような歴史と伝統を礎として、現在も専攻医教育に実績を積み重ねています。当研修プログラムでは、commonな脳血管疾患や整形疾患のみならず、一般的な医療機関では経験する機会の少ない切断・脊髄損傷・呼吸循環器疾患・神経変性疾患・神経筋疾患・嚥下障害・高次脳機能障害などの症例を数多く有しており、経験豊富な指導医のもとで超急性期から生活期にわたり幅広いリハビリテーション専攻医研修が可能です。当科の病棟は、日本でわずか3病院しか指定されていない高機能な特定機能病院リハビリテーション病棟である点も魅力のひとつです。また別表に示すように、当プログラムの連携/関連施設は、いずれも国内あるいは地域のリハビリテーション医療を牽引するトップランナーばかりです。各施設の特色を生かした各分野最高の研修を受けられる点も当プログラムの優れたポイントの1つです。当プログラムでは、ただ単に症例を経験するのみではなく、「質の高いリハビリテーション医療」を経験・実践することが重要であると考えています。当プログラムがそれを可能としている秘訣は、多彩な専門領域を有する優秀な指導医陣と質の高い研修施設あつてこそであるといえます。また中四国地方で唯一のリハビリテーション医学教室を有する大学附属病院の使命として、地域医療の観点からもバランスの取れた研修プログラムの作成を心がけました。日本でも屈指の歴史を有する当医局を基幹施設とし、東京・大阪での大都市型研修のみならず地域医療も経験できる当プログラムは、専攻医の実力アップに寄与できる優れたプログラムであると自負しています。		
	2. 当専門研修プログラムの研修スケジュール		
	川崎医科大学リハビリテーション科専門研修PGの1コース例を示します。 この例においては、1年目は基幹施設、2年目、3年目は連携施設での研修です。 研修する施設は、大学病院、一般病院、リハビリテーション専門病院、センターなどの中から選択され、症例等で偏りのないように、専攻医の希望を考慮して決められます。コース決定に際しては、どのような研修の組み方をしても、内容と経験症例数に偏り、不公平がないように十分配慮し必要なアドバイスをします。 川崎医大リハビリテーション科研修PGのメリットの一つに、県内完結型/多都市経験型いずれも選択可能といった点が挙げられます。 川崎医大リハ科研修PGの研修期間は原則3年間としていますが、修得が不十分な場合は、修得できるまでの期間を延長することになります。一方で、subspecialty領域専門医取得を希望される専攻医には、必要な教育を開始し、また大学院進学希望者には、臨床研修と平行して、研究を開始することを勧めます。以下に一例を示します。 SR1: 川崎医科大学附属病院リハビリテーション科(領域1-8/主に急性期-回復期) SR2: 東海大学医学部付属病院(領域1-8/主に急性期) SR3: 旭川医療センター(領域4/主に急性期-生活期 小児・障害児医療に特化)		
専門医に必要な要件の概略	日本リハビリテーション医学会専門医制度が定める研修カリキュラムに示されている研修目標及び経験すべき症例数を以下に示します。 1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など:15例 2) 外傷性脊髄損傷:3例 3) 運動器疾患・外傷:22例 4) 小児疾患:5例 5) 神経筋疾患:10例 6) 切断:3例 7) 内部障害:10例 8) その他(廃用症候群、がん、疼痛性疾患など):7例 以上の75例を含む100例以上を経験する必要があります。		
プログラム統括責任者	ふりがな 氏名	ひらおか たかし 平岡 崇	所属・役職 リハビリテーション科・診療部長(教授)
プログラム担当者	ふりがな 氏名	あべ ひろまさ 阿部 泰昌	所属・役職 リハビリテーション科・医長(講師)
問合せ先	Tel: (086)462-1111(代表)(内線)25506 E-mail: rehabili@med.kawasaki-m.ac.jp		(部署名) リハビリテーション医学教室